

一人でも多くの人に、パラスポーツの魅力を伝えていきたい!

平昌パラリンピック 金メダリスト

村岡 桃佳さん

埼玉県深谷市出身。正智深谷高等学校卒業後、早稲田大学スポーツ科学部4に入学。現在4年生。4歳で脊髄炎のために車いす生活に。2014年ソチパラリンピックに出場し、大回転で5位入賞。2018年平昌パラリンピックに出場し、大回転で金メダル、滑降と回転で銀メダル、スーパー大回転とスーパー複合で銅メダルを獲得。



©堀切 功

平昌2018パラリンピック冬季競技大会(以下、平昌パラリンピック)に

アルペンスキー女子座位の選手として出場し、

金メダルを含め、出場した5つの種目全てでメダルを獲得した村岡桃佳さん。

埼玉県で生まれ育った村岡さんがウインタースポーツで世界を目指すことになったきっかけや、

金メダルまでの道のり、パラスポーツへの思いなどをお話いただきました。

「平昌パラリンピックでのご活躍、おめでとうございます。金メダリストとして表彰台の真ん中から見る光景はいかがでしたか。」

初日の種目で幸先よく銀メダルを獲得して、初めて表彰台に上がった時の光景は印象深いものでした。そのあとの種目では銅メダルが2回続き「今度こそ、真ん中に立ちたい」と、欲が出てきました。そして挑んだ4番目の種目の大回転で、優勝することができました。ゴールインした直後は「自分の納得のいく滑りができた」といううれしさと、「滑りきった」という安堵感で胸がいっぱいで、金メダルを獲得した実感はありませんでした。しかも、その日は前日に獲得した銅メダルの表彰式だったので、なおさら実感はありませんでした。

しかし翌日に行われた大回転の表彰式で、金メダルを授与された時は、「やはり真ん中から眺める光景はまったく違う!」と心の底から感じる事ができました。



©堀切 功

マシーン(チェアスキー)に乗って座って滑る、という条件を除けば、一般のアルペンスキー競技と同様に滑降や回転などの種目でタイムを競うスポーツです。マシーンを選手個人に合わせて調整していくことに、一般のスキーとは異なる難しさがあります。私たちにマシーンと体が一体になるように調整していくのですが、非常に難しい作業で時間もかかります。選手の間には、パラリンピックに照準を当てて4年間かけて調整する方もいるくらいです。私自身もマシンの調整については、まだまだ勉強しなければならぬと思っています。

また、スピードが出るスキー競技全般にいえることですが、常に恐怖感との戦いです。時速100kmになることもあり、本当に怖いんです。でも怖い!とひるんだら、心に迷いがあつたりすると、必ず減速につながります。逆に恐怖心乗り越えて「いい滑りができた」と感じられるときは、良いタイムが出ます。怖いけれど、怖さの先に満足感がある。その感覚がとても楽しく、私にとって大きな魅力です。

「今回のパラリンピックをきっかけに、パラスポーツに興味をもった方が大勢いると思います。パラスポーツへの思いや、今後の抱負を伺えますか。」

「方はいるのでありますが、声をかけずにそのまま通り過ぎていく方が多いように感じます。ハード面が整備され、バリアフリーとなっても、誰かの手を必要とする場面はあります。最近、日本でも障害のある方がどんどん街に出かけるようになりました。「困っているのかな?」と気付いたら、積極的に声をかけてほしいと思います。」

メダルを手に笑顔でインタビューに応じてくださいました。

「しかし、まだバリアフリーのソフト面で日本は海外に追いついていないと感じます。例えば、私が階段のそばにいて、海外では「上がるの?手伝おうか?」と声をかけてくださる方が多くいます。サポートが必要な場面であったとしても、その心遣いはとてもうれしく感じます。」

一方、日本では障害のある方が街中で困っていると、気が付いて「大丈夫かな」という視線を送る

「スポーツの世界的なアスリートが誕生したことは、とても誇らしいことです。チェアスキーとの出会いや、競技として取り組んだきっかけなどをお聞かせください。」

私は小学2年生の時から車いすスポーツを始め、最初は陸上競技に取り組んでいましたが、小学3年生の冬、友人から「チェアスキーの体験に行かない?」と誘われて初めて雪の上を滑りました。埼玉県で生まれ育ったので雪に馴染みがないうえに、車いすだと雪上で動くことが難しいので、スキーは身近なスポーツではありませんでした。しかし、チェアスキーなら自由に雪の上を動くことができず。その感覚がものすごく新鮮で、スキーが大好きになりました。

その後は、毎年滑りにいくようになったのですが、競技として取り組むようになったきっかけは中学2年生の時に長野県のグレンデで、パラリンピアン(※)の方が滑っている姿を間近で見たことです。そのスピード感や技術の高さに、目を奪われました。

高校時代は、土曜日の授業が終わるとすぐに長野のグレンデに直行し、日曜の夜に帰ってくるという生活を送っていました。高校1年生の冬に海外の大会に出場して「このままではダメだ」と痛感

「だき、一緒に楽しむ機会が増えたいですね。」

私は先日、埼玉県の上田清司知事から2020年の東京オリンピック・パラリンピックをPRする「SAITAMA PRIDE スペシャルアンバサダー」を委嘱されました。埼玉県で開催する競技や会場を多くの方に伝えて、興味をもって会場にいらしていただくように、アピールしていきます。

さまざまな障害を抱えているなかでパラスポーツに打ち込む姿は、それぞれ個性にあふれ、私の目にもとてもカッコよく映ります。一人でも多くの方にパラスポーツを見ていただき、その魅力を感じていただきたいと思っています。

次の2022年北京パラリンピックでは、金メダルを数多く持って帰りたいと思います。4年間は長いようで、実はあっという間です。しっかりと気持ちを入れ替えて頑張りたいと思います。

※パラリンピック競技大会に出場経験のある選手、元選手の総称。

「現在は大学生を送りながら、1年の半分近くは海外に遠征されているそうですね。バリアフリーの環境など日本との違いはありますか。」

スキーシーズンが終了する4月からゴールデンウィークごろまでは国内のグレンデで練習し、その後はウエイトトレーニングなどの体づくりにも励みます。その後は雪を求めて南半球に遠征して練習開始。秋になると北半球に練習の場を移します。それからシーズン終了まで各地を転戦します。

最近では日本でもバリアフリーやユニバーサルデザインの考え方が浸透し、ハード面のバリアフリーはかなり整備されてきました。一方、海外でも必要な場所にエレベーターがなくて困ることもあります。

福祉の街ネットワーク

株式会社 **福祉の街** 048-645-2943
https://www.youism.co.jp
さいたま市大宮区桜木町1-12-5 沢田ビル4F

北部エリア
●ふくしのまち児童館
●加勢町児童館
●デイサービス 瑞穂のまち
●ふくしのまち福祉センター
●デイサービス 桜木
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター

東部・中央エリア
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター

西部エリア
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター
●ふくしのまち福祉センター

福祉の街 本街社

ケアハウスまきば園

行田市白川戸275 048-555-2202
笑顔が自慢のまきば園で、安心して生活を送りたいですか? ご夫婦でのご入居もお待ちしております!

高齢者総合ケア施設 **まきば園**
048-555-2202 行田市白川戸275

元気な挨拶と明るい笑顔! **鴻巣まきば園**
048-547-2202 鴻巣市前砂517-1

全室個室・ユニットケアの新型特養 **岩槻まきば園**
048-797-2202 さいたま市岩槻区横根1375

開放感あふれる鮮やかなケア施設 **武里まきば園**
048-739-2202 春日部市武里中野705